



大分県議会議員 2020年夏号  
県民クラブ会報「県民ひろば」別府市版

# 原田たかし 会報

教育・福祉・労働

子どもたちが「生まれてきてよかった」、  
高齢者の方々が「長生きしてよかった」と  
思える社会を実現するために。

大分県議会議員 原田 孝司

発行責任者：大分県議会・県民クラブ 原田孝司

連絡先：別府市荘園町3組の2 原田たかし事務所 TEL・FAX 0977(25)0011 E-Mail harada@ctb.ne.jp

## みんなでこの難局を 乗り越えていきましょう



原田たかし事務所でも、マスクの着用、手指消毒、ソーシャルディスタンス、机や椅子の消毒などに取り組んでいます

5月25日(月)、政府は新型コロナウイルス特別措置法に基づく対策本部会議において、大分県を含む39県に続き、継続中だった全ての都道府県の新型コロナウイルス対策の緊急事態宣言を全面解除しました。

5月中旬には大分駅のアミュプラザが再開するなど、大分県でも新たなスタートとなっています。また、WHO（世界保健機関）によれば、現在、世界中で100種類以上のワクチンが開発中で、そのうちの数種類が、実際に人に注射して安全性や効果を確認する臨床試験段階になっているとのことです。自粛が求め続けられた社会状況の中で、このような希望を感じるニュースが流れてくることに喜びも感じます。

もちろん、まだまだ油断ができませんから感染拡大を防ぐ対応は長期間に及ぶことを覚悟しておくことが必要のようです。みんなでこの難局を乗り越えていくしかありません。頑張りましょう。

## 2020年大分県議会 第1回臨時会・第2回定例会行われる

6月3日(水)に2020年大分県議会第1回臨時会が開催されました。さらに、6月16日(火)から7月1日(水)にかけて、第2回定例会が行われました。【2・3面に議会報告を掲載】

### 現在の大分県の医療体制は…

当初、大分県のPCR検査の処理能力は1日あたり28件でした。県の処理能力を急ぎ拡大するとともに、大分市保健所の協力も得て、現在では1日あたり計264件処理できるようになりました。3月中旬に、大分市で院内感染によるクラスターが発生しました。この時、PCR検査を必要とする対象者は1,107人まで及びました。しかし、検査体制の強化と近隣県の協力によって、迅速に検査を終え感染の広がりを封じ込めることができました。

検査と並んで、もう一つ大事なことは、医療提供体制の確保です。県内で感染者を受け入れる病床数は、当初、8つの感染症指定医療機関の40床のみでした。感染拡大に伴う患者の増加に対応するため、医療機関の協力を得ながら病床数の確保に努め、現在、25病院で258床を確保しています。

さらに、新型コロナウイルス感染が確認された軽症・無症状者を受け入れる民間ホテル（65部屋）を別府市小倉に6月末まで確保していました。7月からは、複数の宿泊施設と協定を結び、患者の発生状況を見て、必要に応じて新たな施設を借り上げるとしています。

また、医療機関におけるマスクや个人防护具等の資材が、一時ひっ迫したこともありましたが、近隣県から融通してもらい乗り切ったと報告されています。

大分県議会第1回臨時会の「知事提案理由説明」より関係部分を引用してまとめました

医師、看護師、放射線技師等の医療従事者、そして病院スタッフの方々には厳しい環境の中、昼夜を分かたず医療活動に務められていることに、心から敬意を表し深く感謝いたします。

### 折り鶴に込めた願い

原田孝司のシンボルマークは平和を象徴する折り鶴です。  
背景には、教育・福祉・労働を表現する虹がかかっています。

